

戦争の犠牲となった若い命 ー今治空襲ー

今治市



今治北高等学校にある追悼の碑

今治市では、昭和 20 (1945) 年に 3 度にわたって空襲を受けた。全空襲による死者は 575 名を数え、愛媛県下で最も大きな被害を受けた。

4 月 26 日の午前 8 時 47 分から 1 時間あまりの空襲で、駅周辺の市街地を中心に 42 戸の家屋が全壊し、68 名が死亡した。投下された爆弾が今治明德高等女学校 (現今治明德高等学校) に命中し、校舎の一部が破壊され、校長を含む教職員 5 名と生徒 4 名が亡くなった。

5 月 8 日の 2 度目の空襲では、29 名が犠牲となった。そのうちの 11 名が今治高等女学校 (現今治北高等学校) の生徒であった。すでに登校していた汽車通学生と寄宿生および 3・4 年生で防護要員以外の 348 名は、かねてからの計画に基づき学校から 300 メートル北の姫坂山に 20 名ずつ分散して退避した。8 時 30 分ころ、姫坂山に爆弾数発が落下し、そのうちの一発が生徒たちを直撃した。死者 11 名のうち 1 名は 3 年生、10 名は 2 年生であった。

8 月 5 日の深夜から翌 6 日にわたる約 2 時間の空襲で、今治の市街地は壊滅状態になった。市街の 75% の家屋が焼失し、今治・美須賀・常盤・別宮国民学校、今治明德高等女学校、今治精華高等女学校 (現今治精華高等学校)、今治工業学校 (現今治工業高等学校) などの校舎のほとんどが消失した。454 名の死者のうち、自宅で今治高等女学校生 4 名が亡くなったほか、倉敷紡績今治工場に動員されていた松山城北高等女学校 (現松山北高等学校) 生 22 名、東洋紡績今治工場の松山高等女学校 (現松山南高等学校) 生 2 名が亡くなった。

終戦後、今治高等女学校の同級生らは追悼文集を編集した。その一部を紹介する。「突然、かすかではあるが『ドローン』と言う爆音が聞こえた様な気がした、と思ったとたん『ドカン』とすさまじい爆弾が破裂する音が聞こえる。はっと思って皆を見ると両手を耳にやりつつ顔を見合わせている。爆音はだんだん近づき、先生がけたたましく『伏せて、伏せて』と一生懸命叫ばれるのと同時に、私達のすぐ前で『ゴー、ドシン』と物凄い体の引き裂かれそうな音がした」「木片や土の塊が『ざあー』と体中に浴びせかけられた」「もうもうと砂煙が立ち上がり、耳がじんじんと鳴り出して友の姿も何も見えなくなってしまった。やっと気がついた時にはもうあたりは墓場のような静けさにかえて (中略) 友どもが集まってきていた。だがその時、二間ばかり離れた所に十人組の一団が動かぬままに倒れているではないか」「学校へ行っても何となく寂しい気がした。どんなに考えても死んだりしたとは思わない、とみんな言っていた」(一部読みやすいように改めた。)

彼女たちの死を悼む石碑が今治北高等学校の校舎の側に建立されており、70 年近く経過した今も、5 月 8 日には同級生の方々が学校を訪れて献花を行っている。

[参考資料]

今治市の戦災を記録する会 『今治の戦災 あなたに伝えたい』(第 1 集・第 2 集)

愛媛県立今治北高等学校 『創立百周年記念通史』

愛媛県立今治北高等学校生徒会誌 『北斗 第 34 号』